

子どもの頃、鉛筆は何を使っていましたか？

「何を」というのは濃さのことです。HBやBを使ってあった方が多いでしょう。私（は）Bや2Bだと芯がすぐに太くなり、文字がつぶれてしまったように見えるのが好きではなく、HBをよく使っていました。

今、小学校では2B（もしくは2B以上）の鉛筆を使うように指導されます。（ほとんどの子どもが2Bを使い、たがいに3B、4Bの鉛筆を使う子どももいるとのこと。ある文具メーカーの調べによると、20年前に比べて2Bの売上げは40%も上がり、またHBの需要は全体の20%（20年前の半分）と下がっています。なぜ、このように変化してなのでしょうか。

子どもたちの筆圧、握力が弱くなってきている、ということが大きな原因といわれますがそれだけではないとのこと。子どもの体力の低下、生活リズムの乱れ、生活経験の乏しさなど…。鉛筆の濃さひとつから、子どもの体・生活が見えてきます。どうやら鉛筆を持つ前に、文字を書いたり計算をしたりする前にもっと身につけておくべきことがあるようです。

粘土をこねる、糸をちぎる、糸田かいものをつまむ、びゅんびゅんごまやこままわし、石けそびや泥でんごり作り、金針棒をしっかりとにぎる、ジャンプリズムをのびる、木果足になつてリズムをずる、思いきり走る、ふんばって立つ…。そのひとつひとつが手先の動き、器用さを養い、手首や足首をやわらかくし、自分の体を支える筋力を鍛えます。そして、やっと鉛筆を正しく持ち、しっかりと握って、姿勢を保つことができるようになるのです。また、しっかりと手をついてハイハイをする、手づかみで食べる、スポンをにぎって持つ、3指（親指、人差し指、中指）で箸を持つ、使う…。いう発達のひとつひとつが鉛筆の正しい持ち方へとつながります。そう、成長は一足びではないのですね。

入学・入園・進級を控えて、「うちの子、字が読めなけれど…」、「ひらがなは書けなくていいの？」、「授業、集団生活についていけるかしら」と不安がある方もいらっしゃるかもしれません。お子さんは今、思いきり体を動かして遊んでいますか？好きなことを自分で見つけてたのしんでいますか？

あとは、早寝 早起き 朝ごはん！ いっぱい遊んで いっぱい食べて いっぱい寝る!! ..  
 たんともうらやましいですが、それこそが子ども時代に必要なこと。その環境を整えることが大人の役割。それならもう大丈夫。次のステップへ上がる準備はできています。

